

# 学習院大学 国際交流センター

Centre for International Exchange

# News Letter

## アイスランドへの誘い

国際交流センター所長 塩谷清人

学習院大学が協定を結んでいる海外の大学は20を越えておりますが、その中にアイスランド大学が加わって、昨夏レイキャビックで大学間協定調印式を行ったことは前の号で報告しました。もう少しそのことを説明いたします。

アイスランド大学ではその秋から「日本コース」が開講することになっておりました。これを祝って人気作家の村上春樹さんが招かれ、当地で記念講演も行ったと聞いております。村上さんはアイスランドでも知識人の間ではよく知られ、英訳で読まれている作家です。なぜ遠くの日本の作家に興味があるのか不思議に思われるかもしれませんが、彼らには文学に国境はないようです。

そもそもなぜアイスランド大学が日本語教育など「日本コース」を設けるのかという疑問に、上の話に見える異国文化への貪欲な知識欲が一つの説明になるでしょう。実際それが小国アイスランド人の生きる知恵かもしれません。

もっと現実的な理由は、日本がアイスランドの水産物の重要な輸入国であり、観光はアイスランドの収入源の一つであるからです。（オーロラ観光の直行便チャーター機がレイキャビックまで飛ぶというのはたぶん日本だけでしょう。）しかしそれだけではありません。島全体が火山といっても過言ではないアイスランドは日本と同様に地震が起きます。火山や地震の研究は重要な課題です。また島国としての悩み（言語的なことも含めて）もあります。アイスランドの歴史は9世紀にヴァイキングが入植してからですから日本より短いといえます。とはいえ、エッグなど北欧神話以来の固有の文化を現在の国際化のなかでいかに維持していくかも悩みです。日本も同様の状況でしょう。

アイスランドからわれわれが学ぶことはいろいろあります。わずか30万弱の人口で大学がアイスランド大学（学生数6000人）を始め8校あるのも、資源の少ない国で教育がいかに重視されているかを示しています。そのお蔭か、国民一人当たりのGDPは世界のトップレベルです。レイキャビック周辺にはきれいな新築家屋が建ち並んでいますし、文化活動も映画や音楽など盛んです。信仰心の篤い国で新旧の教会がたくさん点在しております。福祉も充実しています。といってアルコール中毒者が多いそうですからいい面ばかりあるわけではありません。これは現在繁栄している北欧に共通の悩みのようなのですが。

以上、遠いようで近い国、日本に友好的な国アイスランドを紹介してみました。（なお、アイスランド大学は約半数の授業を英語で行いますので御安心ください。留学に興味がある学生諸君は国際交流センターへどうぞ問い合わせください。）

vol. 13  
April 1, 2004

# マンハイムでの留学生活 .....



ハイデルベルクにて友人と(右端が福田さん)

「ドイツ文学を通して戦争責任を考える」というテーマのもと、マンハイム大学へ留学して早半年! ドイツの大学では講義で単位を取得することができないと聞いていたため、ゼミナールに挑戦する覚悟で渡独しましたが、実際、マンハイム大学では講義に出席しても単位にならないようです。幸い、今学期は関心を持っていた作家ペーター・ヴァイスについてのプロ・ゼミがあり、アウシュビッツ裁判を扱った戯曲『追究』の発表ができました。評価は、発表に加えて、プロ・ゼミはA4でレポート15枚、ゼミはレポート20枚、場合によっては更に口頭試験、と

## 留学経験者のその後

在学中に留学した学生さん達の「その後」について興味のある皆さんも多いと思います。

準備の段階から留学後の計画を立てておくことは、実りのある留学生活を送り、留学を成功させるための重要なポイントです。2人の先輩に、進路について聞いてみました。

### イギリス留学とその後

平成16年3月法学部法学科卒  
(留学先：英国ウェストミンスター大学)

#### 佐藤 ゆりあ

留学後の就職活動についての体験談を書いて欲しい、というお話をいただいたので、自らの経験を振り返ってご紹介いたします。まず、巷に溢れる「留学すると就職に有利」という説は残念ながら迷信だと言わざるを得ません。猫も杓子も留学に走るこの時代に、単に留学したからといって評価しては貰えないのが現実です。実際、企業の面接で五人中三人が留学経験者ということもありました。また、「留学で培った英語力を活かした仕事がしたい」と訴える人もいますが、これも中々難しい問題です。企業の業務内容にもよりますが、本当に英語が必要な職場では、それこそ大学四年間を海外で過ごした人が求められますし、今となっては外国の有名大学を卒業したという日本人も増えてきています。

それでは一年間留学しても意味がないか、という決してそうではありません。私の場合は、自分を売り込む術を学んだこと、人それぞれの生き方を目の当たりにしたことが就職活動でも役立ちましたし、一生の財産になりました。一年間のロンドン留学の後、四年生の四月に帰国して直ぐに活動を始めたため、右も左も分からず大変な思いをしました。そんな中でも前向きに頑張れた精神力はまさに留学生活の賜物です。また、就職が全てという概念に囚われずに、駄目だったら他の道を探そうと思ってゆとりが持てたのも、異文化に触れて多様な価値観を知ったお陰だと言えます。

イギリスにはリクナビもエントリーシートも無く、学生たちは思い思いの時期に企業に履歴書を送り、向こうが気に入ると面接に呼んで貰えます。私も期末試験後に一生懸命カバーレターを書き、面接を経てアパレル

系の商社でインターンをさせて頂きました。黙っていると雑用ばかりさせられるので、常に自分の出来ること、したい事を訴え続けていると徐々に重要な仕事を任せられるようになりました。展示会での商談やファッションショーのスタイリングに参加させて貰えたことは、日本でもなかなか出来ない貴重な経験です。

就職も何とか決まり、化粧品会社の宣伝部に行くことになりました。広報・広告は前からずっと興味を持ち、今回の留学でも勉強していた分野だったので、望み通りの仕事に就けて喜びもひとしおです。留学中は辛いことも多く、何度も日本に帰りたいと思いました。日本語で言えればもっと上手くいくのにと思うことにつづかる度、悔しくて情けなくて、わざわざ外国に来てしまったことを嘆きました。しかし、幸い人間は忘却の生き物なので、今イギリス生活を振り返ってみると不思議と良いことばかり思い出されます。ですから、自分を伸ばしたい方、好奇心旺盛な方はぜひ恐れることなく飛び込んでみて下さい。きっと楽しい未来が待っていますよ。



緑の多いロンドン住宅街(本人撮影)

いうことで、ハードルの高さをひしひしと感じているところです。

私が住んでいるUlmenweg(大学が紹介してくれる学生共同住居)は通学に30分ほどかかりますが、個室は12畳ほどと広く、5人で台所1つ、トイレ2つ、シャワー1つを共同で使用しています。

パソコンを持参すれば、自室でインターネットをつなぐことができます。日本への連絡が手軽ですし、何より勉強のために非常に重要です。電話は、アジア用のテレホンカードを使用し、かけると、日本からかけるよりも安く、大変お得です。

大学の入学手続きは複雑でしたが、チューターが面倒を見てくれますし、ビザや住所登録も必要なことはきちんと説明があるので、問題はありません。わからないことは、質問すれば、どこでもたいてい親切に教えてもらえます。

留学生活は人とのコンタクトが命だと思っています。私の場合、クリスチャンの集会ですが、定期的に誰かと会える場を作ること、教授にも積極的に相談に行くこと、これが成功の秘訣だと思います。

キャンパスにて友人とその妹と(右端が日下部さん)

## 大海を知る～世界を身近に感じて～

平成16年3月文学部英米文学科卒  
(留学先: 米国ノースカロライナ州立  
大学シャーロット校)

日下部 麻季

大学5年を振り返ってみると、1年間のアメリカ留学は私の学生生活に素晴らしい思い出を残してくれました。またこの経験は、今夏からのオーストラリア留学を決めるきっかけともなりました。

私が滞在したのは、南部のシャーロットという比較的新しい都市で、気候は温暖で、ぬけるように青い「カロライナブルー」の空はとても印象的でした。北部とはまた異なるゆったりとした時間が流れていて、世話好きで心暖かい人々にたくさん出会いました。学校生活はというと、1週間勉強して週末はたっぷり遊ぶというメリハリのきいたものでした。長期の海外生活は初めてだった私にとって、現地の授業についていくのは想像以上に大変で、放課後は毎日図書館で勉強。その後は気分転換も兼ねてキャンパス内のジムやプールで汗を流すのが日課でした。大学内の施設は遅くまで開いており、遅くなくてもキャンパスポリスと一緒に歩いてくれるので安心でした。また、プロ並みのスポーツ施設があり、ホームチームの応援も兼ねてサッカー等の観戦も楽しみました。

週末は友達とドライブへ出かけたり、家でルームメイトとくつろいで過ごしました。特にルームメイトとの思い出は、とてもここだけでは書き尽くせないほど素晴らしいものです。彼女らは私の良き理解者であり、家族のような存在でした。中でも印象に残っているのは、日本にいる親友の突然の死を知らされた夜のことで、彼女達はただ悲しみに暮れる私に付き添ってくれました。辛い時にも自分を理解し支えてくれる友人がそばにいてくれるのはとても心強いものでした。彼女達との生活は忘れることはできません。

様々な国の友達と出会い、語ったことで、私がそれまでもっていた人生観、価値観が大きく変わったと思います。生まれ育ってきたバックグラウンドが異なる人達が集まると、ときには考え方やものの見方の食い違いから衝突が生じますが、お互いを尊重し理解しようとする事で、前よりもっと深い人間関係がつけられることを学びました。それは、自分の知

らない国々の人々が、世界が、ぐっと近く感じられるという興味深い瞬間でもありました。シャーロットで出会った友人達は、これからも長く付き合うことになるであろうかけがえのない存在です。

また、自分の学びたいことに対する現地の生徒の熱心さには、とても感心させられましたし、そんな彼らに刺激を受け、何をするにしても全力でとりくんだ生活はとても充実していました。上手いいかないことが重なり、落ち込んだその翌日には、頑張って取り組んだ課題が評価されて嬉しかったりと一喜一憂のとてもハードな生活でしたが、大切なのは自分を見失わず、何がしたいのか、何ができるのかを考えて、それをやるだけやってみようというポジティブさでした。

この夏から環境学を学ぼうと決意するに至ったのも、留学を通して視野が世界へと広がり、国境を越えて物事を考えるようになっただけではなく、そうした問題に対して自分ができることは行動に移そうという積極性が重要なことを実感したからです。それまで環境問題について強い関心はありましたが、私にとっては未知の分野だったこともあり、踏み込んで学ぶことを躊躇していました。しかし日本を離れてアメリカで生活したからこそ、自分自身を改めて見つめ直し、これから先どうしていきたいのかをはっきりさせることができました。

環境先進国のオーストラリアでは、地球環境の現状についてさらに知識を深め、悪化の一途をたどるのに少しでも歯止めをかけるために、個人・地域・国レベルで何ができるのかを探っていきたいと思います。当初は大学院留学を考えていましたが、英米文学科から全く異なる学問への留学であることと、職務経験が無いという理由から、TAFEという公立の高等専門学校へ進学することに決めました。プリズベンにあるMoreton Institute of TAFEは、主に環境マネジメントに重点をおくプログラムが充実しており、環境問題を学ぶには魅力的な学校です。1年半のDiplomaコースでは、環境問題を分析・評価・解決する能力を身につけることから始め、最終的にはそれまで習得した理論的概念をどのようなフィールドで適用していけるのかを学びたいと思います。そして将来的には、現地または日本の企業において、環境コンサルティングとして働きたいと考えています。様々な壁にぶつかるとは思いますが、自分で決めた道なのであとは前に進むだけです。この留学を応援してくれる両親や友人に感謝しつつ、精一杯学んでくるつもりです。

## 米国留学を考えている皆さんへ

米国非移民ビザの申請に関し、2004年2月1日から、以下のような変更点がありましたので、ご注意ください。

- ・オンライン式ビザ申請書 (EVAF: Electric Visa Application Form DS-156) の提出が必要。従来の手書き等の書式では受け付けてもらえない。
  - ・面接予約受け付けは大使館のウェブサイトで行う。電話による予約はできない。
- 詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

在日米国大使館ビザサービス

<http://japan.usembassy.gov/j/tvisaj-main.html>

なお、ビザの申請方法や必要書類は頻繁に変更されているので、最新情報を必ず確認してください。

## 英国留学を考えている皆さんへ

2003年11月13日より、6ヶ月以上の滞在予定で英国訪問を希望するEU国籍者以外は、日本国籍者を含めてすべて、渡英前にエントリクリアランス (入国査証) を取得することが必要になりましたので、ご注意ください。詳細は下記のウェブサイトをご覧ください。

英国ホームオフィス

[www.ind.homeoffice.gov.uk](http://www.ind.homeoffice.gov.uk)

英国ビザについて

[www.ukvisas.gov.uk](http://www.ukvisas.gov.uk)

## 国際交流センターボランティア募集および登録更新

国際交流センターでは、センター主催のイベント (留学生懇親会やバス旅行など) の企画・運営のお手伝い、留学生の相談相手、短期ホストファミリーなどのボランティアを随時募集しています。興味のある方は、国際交流センターまで来室の上、登録手続きをしてください。

また、現在ボランティアとして登録している学生の皆さんで、引き続きボランティアを引き受けてくださる方は、4月末日までに国際交流センターにて登録更新の手続きをとってください。

## 学習院大学海外留学奨学金について

本学では、留学費用を援助し、できるだけ多くの皆さんが留学のチャンスを得ることができるよう、上記奨学金制度を設けています。平成16年度第2回目の募集については、4月下旬に国際交流センターで配付する募集要項をご覧ください。

応募条件: 「留学願」により許可された留学であること。

募集人数: 12名 (年間)

奨学金額: 1人50万円 (給付)

応募締切: 6月中旬の予定

## 大学院学生の国外における研究発表援助について

本学では大学院学生の研究活動支援の一環として、海外で研究発表を行う学生に対し、10万円を限度に、費用の一部を援助する制度を設けています。平成15年度は下記の通り援助を行いました。平成16年度の募集については、4月下旬に国際交流センターで配付する募集要項をご覧ください。

●平成15年度大学院学生国外研究発表援助採用者 (10名)

人文・哲学 博士後期 朴 炳建

日文 博士後期 李 明玉・魏 聖銓・柳 慧政

自然・物理 博士前期 高橋 将士・諸戸 史織

博士後期 立花 隆行・戸坂 亜希

化学 博士前期 福嶋 貴・伊藤 淳二

## 国際交流センターホームページのご案内

国際交流センターからの各種募集案内や主催行事および閉室等のお知らせは、ホームページを通じてお伝えしています。留学や国際交流に興味のある学生さん、また外国人留学生の皆さん、ぜひ定期的にアクセスしてみてください。

アドレスは、

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.html>

です。

# News Letter vol.13

April 1, 2004

発行日/2004年4月1日

編集・発行/学習院大学国際交流センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL.03-5992-1024 FAX.03-5992-1025

<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/cie/index.html>

●編集後記● 西5号館4階に移転して早6ヶ月。新しい環境にもすっかり慣れました。これまで留学に興味のなかった学生さんも、学生部や教務課へ行ったついでに、不思議そうな面持ちで、国際交流センターをのぞいていきます。確かに国際交流センターにいると、時として「ここはどこ?」といった不思議な気持ちになることがあります。今年はぜひ、国際交流センターで少し違った空気に触れ、新しい自分を発見してみませんか? 多くのみなさんの来室をお待ちしています。

### 【平成16年度国際交流センター運営委員】

所長	塩谷 清人	(文学部)
運営委員	・ 瀧 圭吾	(法学部)
	・ 大澤 顕浩	(経済学部・外国語教育研究センター)
	・ 前田 直子	(文学部)
	・ 荒川 一郎	(理学部)
	・ 有川 治男	(教務部長・文学部)
	・ 遠藤 久夫	(学生部長・経済学部)